

厚生労働

2019 Jun 6

MHLW
TOP INTERVIEW
柳楽優弥
俳優

ワザあり!
働き方最前線
中部電力株式会社

ソーシャル・チャレンジャーズ
その問題、解決します!
岐阜県多胎プレバママ教室

プール熱

ヘルパン
ギーナ

手足口病

結膜炎
など

夏が来る前に備える

“子どもの感染症対策”

夏が来る前に備える “子どもの感染症対策”

アルコール消毒は どれだけ効果的?

感染症を予防するのに一番効果的な方法を知っていますか。ほとんどの方はアルコール消毒さえしていれば感染症に罹らないと思っていますが、これは誤解です。正解は、手洗いが一番効果的。流水で手洗い(詳しい方法はP20)をすることで菌を除去するのではありません。その後、アルコールで消毒すると、さらに効果が上がります。また、夏風邪全般にはアルコール消毒だけでは効果がなく、次亜塩素酸ナトリウムが入っているもので消毒が効果的です。



夏風邪にならないためには、どんな予防法があるのでしょうか? 「手をアルコールで消毒して



あるのでしょうか。 「夏風邪、喉痛、流涕」というのは、子どもの日常生活の基本。この3つのどれかができていない場合は、感染症の兆しかもしれません。 ほかに、夏風邪の特徴として挙げられるのが発疹。あせもは皮膚表面がザラザラしているのに対し、発疹はすべすべしています。

も、死滅するウイルスと、しないウイルスがあります。一番の予防法は、流水で手洗いです。この3つです」と、小暮先生は手洗いをすすめます。 たえば、保育所の階段の手すりやドアノブは多くの人に触れるため、ウイルスや細菌も多く付きます。子どもが自宅に帰ってきたらすぐに手洗いをさせる必要があります。

「夏風邪は子どもだけのもの」と思いがちですが、子どもからその兄弟、家族へと感染が広がることもあります。夏は高温多湿で細菌やウイルスが繁殖しやすいうえ、大人も暑さによる疲労で免疫力が落ちるので、注意が必要です」と、小暮先生は大人の感染リスクにも警鐘を鳴らします。

「いつもより食べる量が少ない」「夜中に起きる」「今日は家のなかで静かに遊んでいる」……これらは子どもたちが発している感染症に罹ったかもしれないサインです。元気なときの様子が変わった家族だから気づく、微妙な体調の変化を見逃さないようにしましょう。

「食へる、寝る、遊ぶ」は生活の基本。3つのどれかができないときは、感染症に罹った可能性があります。一般的に38.5℃を超えたら解熱剤を飲むように言われていますが、これにはあくまで基準値。38.5℃でも食欲もあり元気な走り回って、逆に37.7℃をこえれば、心配はいりません。逆に、子どもの体調が急に悪くなったときは、すぐに病院を受診しなければいけないと言えます。

インタビュー Part 3 見つけて! 不調の兆し

子どもの体調の変化にいち早く気づき、的確な手を打つのが重要な感染症対策。親が知っておくべき「感染症対策のキホンの“キ”」、小児科医で感染症に詳しい小暮裕之先生に教えていただきました。

夏風邪は1シーズンに何回も罹る



「風邪や感染症に罹るのは冬だけ」と思いがちですが、私の診療所ではインフルエンザが流行する1~3月と、夏風邪が流行する7~9月の患者数はほとんど変わりません」と言うのは、有明こどもクリニック理事長の小暮裕之先生。同院や病児保育室で多くの感染症の子もたちを診ています。

7~9月にはやるのは、一般的に夏風邪と呼ばれる「手足口病」「ヘルパンギーナ」「咽頭結膜熱」の3つの感染症です。これらの感染症には特効薬がありません。理由は、原因となるウイルスには型がほとんどあること、新しい型が現れることがあるために特効薬をつけないから。そのため、1シーズンに何回も同じ感染症に罹るといっても不思議な1つです。

「特に保育所の0歳児クラスに多いのは、夏風邪の大きな特徴の1つです。」「特に保育所の0歳児クラスに通い始めた乳幼児はまだ免疫がつかっていないため、最初の1年間は感染症に多く罹ります。それに加え、保育所には夏休みや学級閉鎖がないので、感染症が流行すると、終息するタイミングがなく、長く続いてしまう傾向にあります」と、小暮先生は指摘します。

だからこそ、家族は子どもが感染症に罹ったことをいち早く見抜くポイントはどこに、そのポイントはどこに

有明こどもクリニック 理事長
小暮裕之さん
2003年、愛滋病科大学卒業。国立成育医療研究センターなどを経て、10年9月、有明こどもクリニック有明院を開設。19年9月、病児保育室「フローレンス豊洲」を開設し、感染症の子どもたちも預かる病児保育として注目を集める。日本小児科学会専門医。